

祝成人！
おめでとうございます。

令和2年 比布町成人式

1月12日 令和2年比布町成人式
28人が出席。友人や恩師との久しぶりの再
会に笑顔を見せていました。



町民のみなさんと議会をつなぐ

ぴっぷ議会だより

- 2-3 審議結果「第4回定例会」ほか
- 4-7 一般質問
- 12-13 総務・産建常任委員会合同行政視察調査
- 14-15 議員研修会報告ほか

12月12日

第4回定例会



各施設の料金改定など議案 24 件を審議

12月12日に開かれた令和元年第4回定例会では町の課題等に対し、5議員が一般質問をしました。その後、議案24件を審議し、すべて原案のとおり可決しました。なお、一般質問は4〜8ページに掲載しています。

人事

◆農業委員会委員の任命

欠員になっていた農業委員会委員に次の方を任命することに同意しました。(敬称略)

大熊 勝 幸 (新町)
福井 伸 夫 (3区)

変更

◆定住自立圏の形成に関する協定の一部を変更する協定

圏域の障がい者福祉の向上のため手話奉仕員及び手話通訳者の養成を目的とした協定を旭川市と締結するものです。【原案可決】



「ありがとう」の手話

◆比布町過疎地域自立促進市町村計画の変更について

過疎対策事業債の申請に伴い、過疎計画の変更を行うものです。【原案可決】

指定

◆指定管理者の指定

地方自治法の規定に基づき、各施設の指定管理者を次のとおり指定するものです。【原案可決】

■比布町立診療所(びっぶクリニック) 指定管理者
医療法人社団 友崇会
理事長 加藤 一哉氏

(反対討論1 賛成討論1)
(賛成7 棄権1)

■比布町交流促進施設「良佳プラザ・遊湯びっぶ」指定管理者
株式会社 荒尾
代表取締役 荒尾 孝司氏

(反対討論1 賛成討論2)
(賛成7 反対1)

条例

◆比布町会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例の制定
 地方公務員法及び地方自治法の改正により、従来の臨時・嘱託職員が「会計年度任用職員」に移行します。【原案可決】

◆比布町印鑑の登録及び証明に関する条例の一部を改正する条例
 成年被後見人等の権利の制限に係る措置の適正化等を図るための関係法律の整備に関する法律によ

◆比布町家庭的保育事業等の整備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例
 成年被後見人等の権利の制限に係る措置の適正化等を図るための関係法律の整備に関する法律によ

◆比布町放課後児童保育の実施に関する条例の一部を改正する条例
 保育料を月額4,000円に引き上げるものです。【原案可決】

る改正です。【原案可決】

◆比布町収入証紙条例の一部を改正する条例

◆比布町廃棄物の処理及び清掃に関する条例の一部を改正する条例
 一般家庭の可燃・不燃ごみの収集料金（10kg以内）を40円に引き上げるものなどです。【原案可決】

◆災害弔慰金の支給等に関する条例の一部を改正する条例
 災害弔慰金の支給等に関する法律の改正に伴う条例改正です。【原案可決】

◆比布町放課後児童保育の実施に関する条例の一部を改正する条例
 保育料を月額4,000円に引き上げるものです。【原案可決】

◆比布町福祉会館条例の一部を改正する条例

◆比布町地域センター条例の一部を改正する条例

◆比布町農村環境改善センター条例の一部を改正する条例

◆比布町公民館条例の一部を改正する条例

◆比布町図書館条例の一部を改正する条例

◆比布町青少年会館条例の一部を改正する条例

改正する条例

◆比布町体育館等条例の一部を改正する条例

◆比布町多目的室内運動場条例の一部を改正する条例

◆比布町民プール設置条例の一部を改正する条例
 各種施設の使用料等（主に町外利用者の料金）を改定するものです。【原案可決】

◆国保特別会計（第2号）
 （賛成7 反対1）

補正予算

補正額と総額、主な内容は左上の表のとおりです。【原案可決】

◆一般会計（第6号）
 （反対討論1 賛成討論1）

◆国保特別会計（第2号）
 （賛成7 反対1）

第5回臨時会 11月26日

◆議会議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例

◆特別職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例

◆職員の給与に関する条例の一部を改正する条例
 人事院給与勧告に基づき、議会

議員、特別職、職員に支給する期末勤勉手当の割合を100分の5引き上げる改正等です。【原案可決】

◆職員に限りに関する手続及び効果に関する条例の一部を改正する条例

成年被後見人等の権利の制限に係る措置の適正化等を図るための関係法律の整備に関する法律による改正です。【原案可決】

◆一般会計（第7号）
 補正額と総額、主な内容は左上の表のとおりです。【原案可決】

第1回臨時会 1月29日

◆一般会計（第7号）
 補正額と総額、主な内容は左上の表のとおりです。【原案可決】



令和元年度各会計補正予算（第4回定期会）	
一般会計（第6号）	2,063万7千円の増（総額42億5万円） ■交流促進施設運営委託料の増ほか
国民健康保険特別会計（第2号）	13万6千円の増（総額5億6,266万6千円） ■システム改修委託料の増
令和元年度各会計補正予算（第1回臨時会）	
一般会計（第7号）	289万9千円の増（総額42億294万9千円） ■保育所措置事業の増ほか



町内地域のこれからの 住まいと暮らしの考え方は

村中町長

個人の意思が尊重されるよう 来年度、調査を行い研究を深めたい



今井 明信 議員

□質問・今井議員

前回、高齢者の外出困難や移動支援について質問をしましたが、高齢者等の住まいや居住の在り方、考え方を伺います。

また、住民数の大小に関わらず蘭留地区や東園地区等各地域の行政区の在り方についての考えも伺います。

■答弁・村中町長

高齢者の皆さんが、今住んでいる場所で住み続けていただくためにはJ.R、道北バス、びびたくなどといった地域交通の現況をしっかりと分析し、町民の皆さんのニーズに応じられるよう、次年度以降、新たな地域交通の構築に向けて研究を進めていきます。

住まいに関しては、高齢者対応住宅や単身者住宅など、多様な公営住宅の整備に努め、さらには空き地・空き家の流動化促進事業も展開してきています。農家地区に



まちづくり懇談会の様子

暮らし高齢者の皆さんには、どこで住み続けたいのかなど個人の意思をしっかりと尊重し、市街地への移住希望についても視野に入れ、調査・研究が必要だと考えています。

なお、蘭留地区・東園地区等の各地域の行政区の在り方については地区の人口減少が進んでいます、再編は検討していません。

□質問・今井議員

町として「まちづくり懇談会」以外で、住民の方々の意見をお伺いする場所というものは考えていますか。

■答弁・村中町長

町長への手紙もありますし、できるだけ様々な場所には行くようにしています。集まり等にも行って、ご意見をお伺いする機会も設けているつもりです。インターネット等もありますし、普段、役場に來てお話をされることも拒否することは全くしていません。役場職員にも各事業などで意見を聞かせていただければと思います。

□質問・今井議員

地域に住むご高齢の方の实情は年々厳しくなっています。地域の状況に合うように「びびたく」の

利用回数や除雪の回数を増やす等の配慮をすることはできませんか。

■答弁・村中町長

まずは個々の現状を把握するために住居状況のアンケート調査を来年度以降に実施していきたいと思っています。

□質問・今井議員

平成26年に国が行った地方版総合戦略では様々な政策がありましたが、限界集落に指定された地域の現状は変わっていません。蘭留地区・東園地区なども同じ状況と考えます。

次年度の第2期地方版総合戦略では各課横断で、この問題を取り組んでもらいたいと考えます。

■答弁・村中町長

全庁的な体制で取り組んでいきたいと考えますが、簡単に解決できる問題ではないと思います。

来年度から始めるアンケート調査は外部委託ではなく役場職員が自ら考えて策定し、調査結果の成果を作っていくたいと思っています。





はたらく女性応援事業について

村中町長

女性の活躍の場が広がる一助となるよう研究を進めたい



安藤 裕子 議員

□質問・安藤議員

新しいまちづくり計画の職（しごと）の戦略部分で、町では、はたらく女性への応援として資格取得のために必要な経費の一部を助成する制度がありますが、この制度は町民にあまり知られていないように思います。

制度利用条件の一つに厚生労働大臣が指定する一般教育訓練給付金受給資格者とあります。数えきれないほどの資格取得に関する講座があり、一定の線引きは必要とは思いますが、夢や希望を持って資格取得を目指し、スキルアップを重ねることは、女性が自立し、自分らしく生きるための一助となることでしょうか。

そこで、厚生労働大臣指定以外の講座を受けるにあたり、必要となる経費を含め、女性が輝く時代への町独自の支援計画の考えを伺います。

■答弁・村中町長

超高齢化社会へ突入することにより労働人口の減少、労働力不足が叫ばれており、仕事を離れている潜在的な女性労働力の活用に関心が高まっています。平成27年に「女性活躍推進法」が施行され、働き方改革の一つの軸として、女性活躍の推進があり、ライフイベント

に左右されずに女性が活躍できる環境づくりの必要性も高まっています。

国が定める「女性活躍加速のための重点方針2019」の中で、「女性が活躍するためには地域の実情に応じた取り組みが重要」とあり、本町では30年11月より女性活躍応援金交付事業実施要綱を定め、女性の就業に必要な資格取得のための経費の一部を助成する事業を開始しましたが、独自の支援計画等は策定していません。

多種多様な資格がある中で一定の基準を設ける必要があると判断し、国の支援にさらに上乗せする支援としました。事業を開始し年数が浅いこともあり、今後しっかりとした周知を行い、この事業を通して資格を取得された方が町内の労働力となり、また、町の施策に大いに参画していただき、町内で働く女性の活躍の場が広がる一助となるよう研究も進めていきたいと思えます。

□質問・安藤議員

多種多様な資格がある中で、女性の生き方もさまざまです。取得した資格の知識、技術を持って教室を開く、起業する、講師として町民の健康、食育、メンタル面のサポートをすることなどは、十分社会貢献にもつながり、人と人を繋ぐ原動力となり、地域を支える存在になるのではないのでしょうか。

厚生労働大臣が指定する資格講座と女性が求めている講座とのニーズが合っていないとすれば、町独自の実情に応じた支援の取り組みや計画を進めてはいかがでしょうか。厚労省の枠に縛られず、次年度は比布町独自の「女性の活躍を応援します」の制度の在り方、さらなる戦略を望みます。

■答弁・村中町長

起業するための資格についても検討しましたが、町の施策でするので、町内の事業所の人材不足の解消も含めた新たな対策を検討していきたいと思えます。

※ライフイベント〜一生における誕生や就学、結婚、出産、退職などの人生の節目となる大きな出来事。



助成制度の案内



行政代執行に向けて 条例の制定と予算化を

村中町長

法の範囲内で適正な対応に努めたい



植西 浩一 議員

行政代執行に向けて

□質問・植西議員

空き家等対策に向けての法律が制定されて5年になりますが、比布町はどのように対処しようと考えていますか。

■答弁・村中町長

全国的には周辺の住環境に悪影響を及ぼす空き家等に対して助言・指導・勧告の処置件数が増えており、さらに旭川市や鷹栖町でも解体撤去を行った実績があります。本町にも適正に管理されていない空き家が数軒あり、慎重に調査・検討を行ってまいります。

□質問・植西議員

代執行に関する条例を定めたとしても即執行できるわけではないことはご承知だと思いますが、まず制定することが先決ではありませんか。

■答弁・村中町長

条例をまったく制定しないということではありませんが、現在対応範囲が拡大されつつある法整備の中で対応できることが十分あります。

□質問・植西議員

国土交通省の資料には自治体の行政代執行が進まない理由として「費用負担の公平性」について約8割回答されていました。

しかしながら、まちづくりの観点から予算に費用を含めることも必要ではありませんか。

■答弁・村中町長

空き家の解体などは所有者が最後まで処理するのが大原則というもとの交渉を行っていきます。しかし、長期の交渉の間、空き家もつとひどい状況になってくることも想定されますが、今のところ現行法律の中で所有者とお話しさせていただきます。

□質問・植西議員

異常気象が多くなってきた中で緊急対応が必要なこともあると思います。今後の緊急対応についてお聞かせください。

■答弁・村中町長

一番大切なのは町民の命です。緊急時にはこれからも対応させていただきます。

□質問・植西議員

代執行の費用が支払えない方もいます。そういう方の物件は費用負担が必要になってくるのではありませんか。

■答弁・村中町長

代執行の法令に基づかないまでも危険な空き家を解体した事例があります。所有者としっかりと話しをして適正管理を推進します。

コンパクトシティ実現に向けて

□質問・植西議員

将来、自治体の予算や職員数が縮小され自治体の中の活動人口が増えなければ、自助がままならない状態になってしまうことが予想されます。移住先として、例えば、コミュニティを保ちながら住み続けられる公住に対するニーズは把握されていますか。

■答弁・村中町長

公共サービスは人口減少と共に効率が悪化し住民負担が重くなる可能性も考えられます。住み慣れた地域で暮らし続けることは大切ですが、さまざまな生活環境が必要で。

また、農家地区からの移住条件にはコミュニティが挙げられていたことも把握していますし、重要であると考えています。このことについてはニーズ調査が必要だと思います。

□質問・植西議員

自助力の低下についてお話しする機会も必要ではないですか。

■答弁・村中町長

公共サービスで様々なフォローができることもあると考えています。ただし、財政的にも厳しくなると思います。



0歳児から保育可能な 認定こども園の実現に向けて

村中町長

小規模保育所の早期開設・認定こども園へ移行に向けて協議を進めていく



遠藤 ハル子 議員

□質問・遠藤議員

平成30年4月から新「保育所保育指針」が施行され、幼稚園、保育園、認定こども園のめざすものを統一した「幼児教育の在り方」が明確になりました。町内に幼稚園が欲しい親の願いが実現できる可能性が一歩進みました。

町内における30年の出生数は14人、令和元年はこれまで14人が誕生し、0〜5歳の転入者はあわせて23人です。

くるみ保育園児数は、昨年度は101人で今年度は104人、その他に町外への通園者は昨年度は5人、今年度は3人います。

先日こどもの広場に出掛け、10組の親子と交流しながらいろいろな話を聞いてきました。

「旭川に住んでいるが比布の実家からひろばに来ている。子どもは幼稚園に入りたいので比布に引越すか悩んでいる」、「保育士さんの忙しさを見ると給料が安すぎる」、「保育料が無料になり預ける



子どもの広場

人が増えれば保育士が不足し、安全が確保されなくなるのではないかなど声がありました。

0〜2歳の子どもを持つ親の願いは子育てでも仕事も両立させたいが、待機児であることから経済的な理由やキャリアがなくなるのではないかなどの不安に直面しています。

移住政策の次は保育・教育環境を良くしていく、さらに、若年世代の移住・定住策を継続していくことが必要ではないかと思えます。

町長に認定子ども園についての見通しと考えを伺います。

■答弁・村中町長

平成30年に10年ぶりの大きな改定が行われ、新・保育所保育指針が示されたことにより、保育所においても幼稚園や認定こども園と同等の幼児教育が実施されることとなり、保育所入所も一つの選択肢となりました。

30年度に本町では初めて保育園での待機児童が発生し、今年度は、届出をしていないが入所を希望している潜在的待機児童が発生している状況です。この要因として国の働き方改革推進により、子育て世代の就労意識が変化してきたことに伴う保育ニーズの低年齢化が大きなものと考えています。



くるみ保育園いちご狩り

また、昨年10月から実施された幼児教育・保育の無償化に伴い、さらに保育ニーズは高まるものと見込まれます。町として移住・定住政策、子育て支援施策を進める上で、待機児童対策は喫緊の課題として、受け皿の確保が必要不可欠であると認識しています。待機児童の解消に向けて保育環境の整備をするために、0歳児から2歳児までを対象とした小規模保育所の早期開設に向け協議を進めていきます。

また、3歳以上で保育の必要性の認定が不要となる1号認定のニーズも高まることが想定され、幼稚園と保育所の機能や特長を合わせ持ち、地域の子育て支援も行う施設の整備も必要となることから、認定こども園への移行について、くるみ保育園とも協議を進めていきます。



加工開発への支援強化を

村中町長

施設の有効活用も含め 町として開発の支援をしていきたい



谷口 雅浩 議員

特産品開発への環境整備について

□質問・谷口議員

第12次まちづくり計画によると「全国各地で6次化、ブランド化に対する取り組みがさらに進み、そうした状況において、本町の農産物や特産品が生き残るためには、いかに突出した存在になり、本町の商品を選んでもらうかが重要になります。農業と商業の連携を密にし、新たな開発支援を含め、比布ブランド力の向上を進めていきます」とあります。

現状では、素材と販売については確立されていると思いますが、加工については弱いのではないのでしょうか。旧中学校の給食室や夏場は空いているセンターハウス、雪番屋の調理場を貸し出すことは可能かどうか伺います。

■答弁・村中町長

原材料の生産から最後の加工の過程まで、すべて町内で行われることは消費者の方の安心、また信頼につながると思いますが、上川保健所に確認したところ、営業許可を受けている事業者以外の方は同じ施設で営業許可を受けることができないとの回答でした。

このため、センターハウスや雪番屋において別の方が販売を目的

とした営業をすることは難しいと考えます。また、旧中学校調理室についても株式会社ヴォレアスが利用予定であることから難しいと考えています。

□質問・谷口議員

特産品を作るための建物を建設してほしいのではなく、空いている場所を有効利用できないかという事です。例えば、営業許可を受けている事業者が使えるのであれば、営業許可を受けている人へ交えて、そこを使うというのは可能なのでしょうか。

■答弁・村中町長

今ある施設を有効活用するところというのは大変賛成できる所です。指定管理を受けている給食センターを活用しているという事例も聞いたことがありますので、いろんな方法はあると思います。

停電対策について

□質問・谷口議員

国は、災害時に対策本部になる本庁舎の非常用電源については、72時間分の備蓄燃料確保を求めています。現状はどのような状況と連携することは可能か伺います。

■答弁・村中町長

一昨年のブラックアウトの際には、インバーター付きの小型発電機5台（道総合行政情報ネットワーク用1台、総務企画課2台、選挙管理委員会1台、建設課1台）を稼働させ、最小限の通信・危機対応業務を続けたところです。

使用方法にもよりますが、発電機5台をすべて稼働させた場合、1時間当たりの使用燃料は約6・8リットルで、役場で常時備蓄している40リットルでは約6時間の稼働時間となり、72時間の継続稼働には、給油が必要となります。燃料の確保については、北海道が北海道石油業協同組合連合会と協定を結んでおり、市町村からの要請で、幹旋と調達を行うことになっています。

なお、防災無線には、無停電装置が備わっており、最大で3日間、稼働が可能となっておりますが、町内にあるJAぴっぷ町や山森産業株式会社とも協定を結んで、燃料の確保をしていきたいと思えます。

※令和元年12月27日に、JAぴっぷ町並びに山森産業株式会社と燃料調達に係る災害協定が締結されました。

委員会の activities



Q…委員からの質疑
A…担当からの回答

総務常任委員会

11月26日開催

【総務企画課】

《報告事項》

■第5回議会臨時会提出議案

◇議会議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例ほか2件

人事院給与勧告による考え方の説明を受ける。

総務常任委員会

12月2・3日開催

【税務住民課】

《報告事項》

■令和元年度町税等の収納状況

■上川広域滞納整理機構の収納状況等

11件418万円のうち、収納額は125万4千円。

《協議事項》

■比布町印鑑の登録及び証明に関する条例の一部を改正する条例

【保健福祉課】

《報告事項》

■高齢者等の門口等除雪事業申込状況

◇除雪サービス

申請件数は119世帯で、うち新規は19世帯。昨年より9世帯減。

◇門口除雪サービス

89世帯が申請。昨年より6世帯増

Q除雪範囲が不明で現場で混乱しているのではないか。

A範囲がわかるチラシを作り、双方に理解をしてもらうようにしました。

■プレミアム付商品券事業申請状況

対象者636人に対し、申請者は195人(約30%)。全国でも近隣町でも申請者が少ない状況。

Q町内の利用事業所が少なく申請に踏み切れないのではないかと。

A利用事業所は確かに限られていますが、1月まで使えます。

■各種健診等受診状況

受診者は年々減少傾向にある。

Q職場で健診を受けた人はどうなるのか。

A結果表を保健センターに提出いただき、項目を満たしていれば受診をしたこととなります。

Q情報提供を求めているか。

Aぴっぷクリニックと五十嵐クリニック(旭川市)と提携しています。

■各医療費の状況

■介護保険事業の利用状況等

Qフレイル(身体的機能や認知機能の低下が見られる状態)の予防はすでに病院でもしている。地域住民に啓発してはどうか。

A三平サロンのように支える・支えられる側がともに主体的になるのが最大の介護予防です。三平サロンは社協の事業ですが、今後交付金などを活用していきたいと思えます。

《協議事項》

■第4回議会定例会提出議案

◇指定管理者の指定

医療法人「友崇会」に比布町立診療所(ぴっぷクリニック)を令和2年4月1日〜令和7年3月31日までの5年間を指定したい。

◇比布町家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例

◇比布町廃棄物の処理及び清掃に関する条例の一部を改正する条例・収入証紙条例の一部を改正する条例

一般家庭ごみ処理35円から40円に、事業系50円を60円に、本年4月1日から改正したい。4月以降は5円・10円の証紙を貼り足すことで利用可能。

◇一般会計補正予算

◇国民健康保険特別会計補正予算

《その他》

■保育園待機児童解消に向けた今後の対応

■火葬場建替工事の進捗状況

管理人教育を行い、本年4月1日から供用開始できるように仕上げている。

【総務企画課】

《報告事項》

■第4回議会定例会提出議案

■表彰審査委員会の結果

■まち・ひと・しごと創生総合戦略

まちづくり推進室が事務局となり一般町民・事業所・団体・専門家・町職員で構成する町民会議(分野別ワークショップ)で課題・意見などが議論され、その概要について説明を受けた。

◇「育」分野は9月20日と10月1日の2回開催。

◇「職」商工観光分野は10月15日

健康のことと健康のことに保健センターにご相談ください!



川島保健師と中村保健師

開催。農業分野は10月21日開催。

◇「住」分野は9月25日、10月21日開催。

◇「安」の分野は9月27日・30日に開催。

◇「基礎的な取り組み(情報発信)」は9月24日開催。

■ふるさと納税の状況

平成30年度は1,098人から2,856万6千円の寄付を受けた。11月24日現在で比較すると、前年比160人増、600万円増。

寄付金はこれまで中学校の楽器購入、駅改築、百年記念公園東屋修繕、中学校改築など30事業に活用。

■地域おこし協力隊の活動

これまでの活動の報告とバレーボールアカデミー「ONES」が昨年7月から開設された。



子どもたちにバレーボールを指導する雑賀さん

■応援大使活動

令和2年度職員採用状況

《協議事項》

■第4回議会定例会提出議案

◇定住自立圏の形成に関する協定の一部を変更する協定

◇比布町過疎地域自立促進市町村計画の変更

◇会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例の制定

◇災害弔慰金の支給等に関する条例の一部を改正する条例

支給決定の迅速化の観点から新設された支給審査委員会の設置の改正があり、委員は医師、弁護士、その他町長が必要と認める者のうちから任命する。

【生涯学習課】

《協議事項》

■第4回議会定例会提出議案

◇比布町放課後児童保育の実施に関する条例の一部を改正する条例

保育料を月400円引き上げ、月額4,000円とするもの。

◇比布町福祉会館・地域センター・公民館・図書館・青少年会館・農村環境改善センター・体育館・多目的室内運動場・町民プール設置条例の一部を改正する条例

町民使用料は据え置き、町外使用料を値上げするもの。

◇一般会計補正予算

《報告事項》

■令和2年度就学予定児童

今年4月に27名が就学予定。

■全国学力・学習状況調査結果

学校給食費の値上げ
今年4月から1食20円の値上げ。

食材の値上がり分と栄養改善に充てます。

■君の夢プロジェクト推進事業

中学校修学旅行支援・部活動支援・講演会事業を実施。

■中学生チャレンジゼミ

1年11名、2年16名、3年17名が受講した。

■第71回成人式の開催

総務常任委員会

1月29日開催

■第1回議会臨時会提出議案

《協議事項》

【総務企画課】

■総務費関係補正予算案

【保健福祉課】

■民生費関係補正予算案

産業建設常任委員会

12月5日開催

【産業振興課】

▽農林部門

《報告事項》

■米出荷・青果物販売実績

◇米合計 90,029.5俵

60kg/俵(そばのみ45kg/俵)

米 63,904俵

加工用米 14,004.5俵

新市場開拓用米(輸出用米)

11,900俵ほか

◇小麦 3,001俵

◇大豆 3,462俵

◇小豆 30俵

◇そば 925俵

◇青果物(JAへの出荷分)

2億4,626万5,313円で、

前年比75.8%

◎出荷先変更による出荷額の減で、生産量は前年並み

■経営所得安定対策等交付金

◇畑作物の直接支払交付金

7,039万5,951円

◇水田活用の直接支払交付金

戦略作物助成

1億6,247万7千円

産地交付金

1億1,719万3,500円

■町単独補助事業実施状況

◇そ菜・花卉作付拡大推進事業

3件 187万2,200円

◇青果物等振興対策事業

6件 98万3千円

◇家畜導入推進事業 1件

◇死へい牛適正処理事業 5件

◇農地流動化促進対策事業

賃貸支援37件、売買支援7件、

売買支援(30年度継続分)10件

◇青年農業者支援事業 3件

■令和2年度産米「生産の目安」

に係る経過と予定

■びつぷいちご振興事業の経過

《協議事項》

- 第4回議会定例会提出議案
- ◇ 一般会計補正予算

▽商工・観光部門

《報告事項》

- 令和元年度各施設の利用状況
- ◇ 良佳プラザ遊湯びっぷ
- ◇ グリーンパークびっぷ
- ◇ びっぷスキー場

シーズン券販売状況・行事計画・臨時職員採用状況

◇地域ふれあい館

■商工業関係支援補助

振興事業2件、イベント事業1件、補助金返還の経過説明

《協議事項》

■第4回議会定例会提出議案

- ◇ 一般会計補正予算
- ◇ 「良佳プラザ・遊湯びっぷ」第3期指定管理者の指定について

【建設課】

《報告事項》

■建設工事の発注及び進捗状況

- ◇ 町営住宅関係 8件
- ◇ 土木維持補修関係 46件
- ◇ 上下水道関係 2件

- ◇ 建設課以外の工事 9件
- 令和元年度除雪計画

- ◇ 町道延長 170・0 km

- ◇ 総除雪延長 125・2 km (73・6%) ※うち委託道路延長 2・4 km

- ◇ 公共施設等 直営8箇所・委託

13箇所

◇スリップ対策砂散布委託 23箇所

■まちづくり懇談会での意見・要望事項等

《協議事項》

■第4回議会定例会提出議案

- ◇ 一般会計補正予算
- ◇ 比布町営住宅管理条例施行規則の一部を改正する規則

【農業委員会】

《報告事項》

■農業委員会委員候補者（補充）の応募結果
欠員3名のうち、応募者2名

■農地法及び基盤強化法による農用地集積状況

産業建設常任委員会

1月29日開催

■第1回議会臨時会提出議案

《協議事項》

【産業振興課】

■農林業費関係補正予算案

議員全員協議会

1月29日開催

【総務企画課】

《協議事項》

■まち・ひと・しごと創生総合戦略

聞かせてください！

議会傍聴の感想



町のSNSで議会の開催を知り、傍聴しました。これまで住んでいた町では、議会のことに関心がなかったのですが、比布町に移り住んで多くの方と関わる中で町に対する興味が生まれ、住民意識が強くなりました。

一般質問での町長と議員の議論はとても迫力がありました。課題に対する行政の対応の難しさもわかりました。また、町の現状が具体的な数値で示されていたり、助成制度の話など多岐にわたっており、自分が知らない話もたくさんありました。

議会で話し合われる内容が事前にわかれば、自分の興味があるところだけでも傍聴ができるので、議会に足を運ぶ方もいると思います。そして、一度傍聴することにより、これまでよりもっと議会や町が身近なものに感じられるようになると思います。

(30代・男性)

みなさんも比布町議会を傍聴しませんか

次回の議会定例会は3月上旬に開会します。一般質問のほか、令和2年度の予算などを審議します。くわしい日程は、無線放送等でお知らせしますので、お気軽にお越しください。



審議内容をよりわかりやすく！ 議案書の貸し出しを始めました



傍聴をされる方に、議案書等の資料を貸し出します。(先着5名分) 傍聴受付簿の横に備えていますので、ご活用ください。

合同行政視察調査

安心して子育てでも暮らしもできる町へ

本町における子育て支援と良佳村エリアのさらなる振興に向けて、令和元年10月23～24日に、瀬棚郡今金町の「認定こども園いまかね」及び観光施設「クアプラザピリカ」を視察・調査しました。



本町には待機児童、幼稚園の開
設希望、保育園舎の改築などの課
題があります。この課題の解決に
向けて先進地である瀬棚郡今金町
の「認定こども園いまかね」を視
察しました。

今金町では幼保一元化を考えて
いたところ、社会福祉法人カトリッ
ク社会福祉協会が経営を希望し、
民間委託をすることになり、平成
23年4月から国の認可を受けて幼
保一元化がスタートしました。

町長は建築40年が経過した町立
保育園を児童発達支援ができるよ
うにと考えていましたが「認定こ
ども園」に国の補助金があること
から決断したそうです。また、職
員の継続雇用を考え、職員9名を
派遣し、給与を保障するなど話し
合いができたことで、スムーズに
移行ができました。

園長は「ここで育てたいと転勤
を希望してくる人がいます。園で

は教育と保育の差がなく一体的に
利用できます。ただし、教育利用
は年間9週の休みが必要です」と
話し、「現在、保育利用の定員超過
が続いています。教育利用が減り
補助金が増えましたが、幼児保育
無償化により補助金が減るため、
施設運営が難しくなります」との
苦労話も伺うことができました。

その後、元気な子どもたちの様
子や給食室など保育現場を見学し
ながら現場の実情と率直なお話、
私たちの質問に対しても丁寧に答
えていただきました。

本町でも来年度の保育環境をど
うしていくか話し合う時間を持ち、
一歩前進していきたいと思えます。
「安心して子育てでも暮らしもでき
る町」に向けて取り組んでいく良
い機会となりました。

総務常任委員長 遠藤 ハル子

認定こども園いまかね (幼保連携型認定こども園)

平成23年4月に町立今金保育
園、町立今金幼稚園、今金小百合
保育園の3施設が統合し、町の支
援のもと、社会福祉法人カトリッ
ク社会福祉協会が運営。

認可定員 125名
*保育利用 100名
*教育利用 25名
職員数 34名



クアプラザピリカ

今金町美利河地区にある自然を生かした観光施設。センターハウス、温泉棟・交流棟、スキー場、レストハウスなどの施設のほか、キャンプ場では町と提携しているアウトドアブランドLOGOSの商品を貸し出す「手ぶらでキャンプ」プランでグランピングを楽しめる。また、地区内では障がい者の通年・安定雇用の場としてハウスいちごを栽培。農業・観光・福祉が連携し、収穫体験や加工販売などを行う。



良佳村エリア全体として 各施設間の連携で 利用者増を

本町の良佳村施設と比較すると今金町の観光エリアは小規模でしたが、平成初期に建設された施設として住民や観光客に長く親しまれている施設となっています。

また、民間企業との包括連携協定や観光農園など住民と行政、指定管理者が一体となって今金町の観光に取り組む姿勢は、良佳村を今後どのように考え、今金町の男爵いものように比布のいちごの確立を目指し、新たなニーズにどのように対応していくのかなど、さまざまなことを考察できた視察調査となりました。

近年、良佳村全体での利用者は減少傾向にあります。

ア志向の高まりからキャンプ場の利用は増加傾向となっています。

今後は民間企業との連携や駐車場の確保にあわせたオートキャンプへの対応など、スキー場の夏場利用を含めて検討する必要もあると考えますが、良佳村エリア全体として個々の施設だけにとらわれず、各施設間の連携による利用者の増を図ることも重要と考えます。

本町の良佳村は豊かな自然に恵まれ、交通や施設のにも整備されており十分な集客能力があることを改めて認識したところでした。この特徴を生かし、本町の観光資源として今後の新たな展開がなされることを期待します。



産業建設常任委員長 澁谷 興二



【今金町の概要】

北海道渡島半島の北部に位置する町。明治30年に瀬棚村(現:せたな町)から分村して「利別村」として自治制を施行し、昭和22年には自治制施行50周年を迎えたのを機に、市街地の基礎をつくった今村藤次郎と金森石郎両氏の姓の冠字をとって「今金町」として町制を施行しました。基幹産業は農業で、特に今金町で生産される男爵いもは「今金男しゃく」の名で全国ブランド化され、その味と品質は日本一と評判されています。

- ◆面積 568.25km² ◆人口 5,231人(平成31年3月末現在)
- ◆主要産業 農業(男爵いも・米・大豆など)

上川管内町村議会議員研修会

昨年10月29日、上川管内町村議会・道市議会議長会道北支部議員研修会に参加してまいりました。

開催地、角和美瑛町長のご挨拶後、檜山管内江差町の社会福祉法人理事長である樋口英俊先生に「障がい者の就労と高い作業工賃確保を目指して」のご講演をいただきました。

樋口先生は平成2年同町に、あすなる学園（定員40名・職員17名）を設立以来、障がいを持ちながら仕事に従事する方々と日々寄り添い社会で活躍できる環境づくりを実践し、現在パン工房・レストラン・ホテル事業等、計15施設を展開されています。



次に北大客員教授、久田徳二先生に「グローバルバリエーションの新時代」と題し、日米貿易合意に伴う大量輸入時代を迎え、食への危機感・安価なモノと安全性が疑わしいモノ（遺伝子組み換え生物・農薬・家畜成長ホルモン）等による人体への影響、今後日本の食を支える北海道地域農業の持続的発展についてのご講演をいただきました。

限られた時間でありましたが、次代を思い入る貴重な機会となりました。

（佐藤 康則）

研修報告

上川・留萌管内女性議員研修会 年に1度の女性だけの学びの場

参加者 遠藤ハル子
安藤 裕子

昨年10月8〜9日、和寒町で「上川・留萌管内女性議員研修会」が開催され、安藤議員とともに参加しました。両管内47名の女性議員のうち、今回は25名の参加となりました。

研修は「化学物質過敏症・香害の現状と課題は」と題し、徳永工リ参議が録画で「家庭で使用する柔軟仕上げ剤や消臭剤の香料によって、頭痛や吐き気などの健康被害を受ける人が増えている」実

体験をもとに対談方式で話をされました。

研修後は和寒町内の茶室「片栗庵」にてお点前を受けてリラックスした後、交流会には徳永工リ参議が来町され、交流しました。

1年に1回の学習交流会ですが、その年の担当議員の特色や町の活力が紹介され、学びの場となる研修でした。

（遠藤ハル子）



全国小さくても輝く 自治体フォーラムに参加して



南牧村の街並み

昨年10月4～5日に、群馬県南牧村で開催された「第24回全国小さくても輝く自治体フォーラム」に遠藤ハル子議員、植西浩一議員、安藤裕子議員が参加しました。

専修大学の白藤教授の記念講演で始まったフォーラムは、自治体構想2040を踏まえ、これからの自治体の未来を占うものであったように思います。

自治体が未来も同じ自治を継続するには今までの方法では限界が来てしまい、すぐに合併や統廃合の議論が見え隠れしてしまいます。その前に地域が自覚を持ち、自治を維持する意義をアピールする必要があるというものでした。

講演の後、群馬県内で活躍する地域おこし協力隊の活動が紹介されました。

まず、南牧村に農業をしにきた若者の話しを聴くことができました。

彼は事前に日本国中約40箇所を3年かけて調査し、自分に合う地域を南牧村と決めたそうです。それゆえ、現在進めている自然栽培の野菜の売り先も安定していて、生産量を増やす目標も徐々に高くしている状況であるとのことでした。また、南牧村の住民は一生懸命やっている自分のひたむきさに対し、家を破格値で賃貸してくれたり、必要な農業機器を世話してくれたり、少しずつではあります協力的になったと語っていました。

ほとんどの地域で移住者に対し

ての接し方に苦勞しています。本人の努力次第で地域が必ず受け入れてくれることをこの若者は語っていたのが印象的でした。

次に、グリーンツーリズム（農業体験）を定住・定着につなげるためのお手伝いをしている農ガールの話では、どのようにすれば定着率を高めることができるかを模索しているようでした。

町外の人を関係人口とするには、まず体験してもらうことが大切です。体験を通して、大変さも楽しさも知ることができ、さらに大変さだけを印象に残さないようにさまざまな工夫や手助けが用意されていることに驚かされました。

また、それぞれの思い入れの違いに応じた関わり方をこのグリーンツーリズムに用意していることは、一時的なボランティアがどのような農村地区と関わりを持つのかも含



交流会の様子（撮影 遠藤ハル子）

め、農村地区への関係人口をいかに増やすかが目標のようでした。

関係性を維持するための工夫、努力をしていけば、需要が生まれ、関係人口は必ず増える。しかし、その工夫や努力を伝える者がいないと、よくわからずに帰ってしまっている人がいます。もちろん、思いが深い積極的な移住希望者にとっては、自発的に居場所を探すことができますが、そういう方だけを受け入れるだけではグリーンツーリズムの意義が小さくなってしまいます。まさに比布町で行っている積極的な発信、アピールは重要であることが再認識できました。

夕方から始まった懇親会では、東京から来た若者や大学の研究者などと地域の現状について語りあうことができました。

2日目の分科会では、①移住・定住②地域資源活用・地域振興③都市・農村交流に分かれて各助言者の話、さらにテーマに合った自治体実践者の話を聴きました。

分科会の様子は字数が足りず、割愛させていただきますが、それまで長く続いている事例であっても、これからの未来につなげていくには地域の協力や意識が相当必要であるように感じました。

本当に有意義な2日間となりました。（植西 浩一）

議会のうごき

11月

- 3日 比布町文化奨励賞贈呈式
(改善センター、各議員)
- 12日 町村議会議長全国大会及び上川町村議会議
長会臨時総会・現地研修会 ～ 16日
(東京都ほか、議長)
- 21日 上川中央部市・町議会正副議長研修会
(愛別町、正副議長)
- 26日 総務常任委員会 (役場、委員・議長)
議会運営委員会 (役場、委員・議長)
第5回議会臨時会 (役場、全議員)

- 議会広報特別委員会 (役場、委員)
- 20日 大雪消防組合議会定例会 (美瑛町、組合議員)
- 21日 旭川・紋別自動車道 丸瀬布遠軽道路開通式・
道の駅「遠軽森のオホーツク」落成式
(遠軽町、議長)

1月

12月

- 1日 ぴっぴスキー場開場式 (スキー場、各議員)
- 2日 総務常任委員会 ～ 3日 (役場、委員・議長)
- 3日 大雪浄化組合議会定例会 (愛別町、組合議員)
愛別町外3町塵芥処理組合議会定例会
(愛別町、組合議員)
- 5日 産業建設常任委員会 (役場、委員・議長)
- 9日 議会運営委員会 (役場、委員・議長)
- 12日 第4回議会定例会 (役場、全議員)

- 7日 比布消防団出初式(比布コミセンほか、全議員)
- 10日 比布商工会新年交礼会 (商工会館、議長)
- 12日 第71回比布町成人式(改善センター、各議員)
- 15日 上川町村議会議長会役員会 (旭川市、議長)
- 18日 北口ゆうこう道議と語る新春の集い
(士別市、議長)
- 20日 議会広報特別委員会 (役場、委員)
- 25日 自由民主党北海道第6選挙区支部新春の集い
(旭川市、議長)
- 27日 議会広報特別委員会 (役場、正副委員長)
- 29日 総務常任委員会 (役場、委員・議長)
産業建設常任委員会 (役場、委員・議長)
議会運営委員会 (役場、委員・議長)
議員全員協議会 (役場、全議員)
第1回議会臨時会 (役場、全議員)



©2019 Pokémon. ©1995-2019 Nintendo/Creatures Inc./GAME FREAK inc. ポケットモンスター・ポケモン・Pokémon は任天堂・クリエーターズ・ゲームフリークの登録商標です。

議会広報特別委員会

- 委員長 安藤裕子
- 副委員長 谷口雅浩
- 委員 佐藤ハル子
- 委員 大熊勝幸

(佐藤 康則)

令和初の新春を穏やかに迎えられたこととお喜び申し上げます。

昨年5月、時代は移り変わり、今後の『平穩』を願い『飛躍』を誓う声が多く聞かれたなか、地元では将棋クラブに所属する中央小学校の3名が文部科学大臣杯の全国大会出場や野球少年団がチャンピオン大会準優勝、比布中学校剣道部の団体女子が兵庫県で開催された第37回若鷲旗剣道大会出場、また若手農業経営者が、冬のハウスいちご「紅ほっぺ」の栽培に挑戦をされ、年末にはポケフタの登場等、町内では『期待』と『活力』、さらに『話題』の多き年でした。

国内でも名城大学 吉野教授がノーベル化学賞を受賞され、ラグビー日本代表も世界の8強入りを果たし、全国的にも歓喜にあふれ、『感動』と『勇氣』を与えてくれる1年でもありました。

一方、相次いで上陸した台風は関東・東北各地に未曾有の被害をもたらし、自然災害の備えがより不可欠であることも実感しました。

令和2年こそが元号に託された『平穩・飛躍』とが融合する、起点の年となりますよう祈念いたします。

編集後記

